



館蔵資料展

松戸市平和祈念展

平成27年7月18日[土]~9月23日[水・祝]

休館日●月曜日(祝・休日の場合は開館し、翌日休館)

会場

博物館企画展示室

開館時間

9時30分~17時
(入館は16時30分まで)

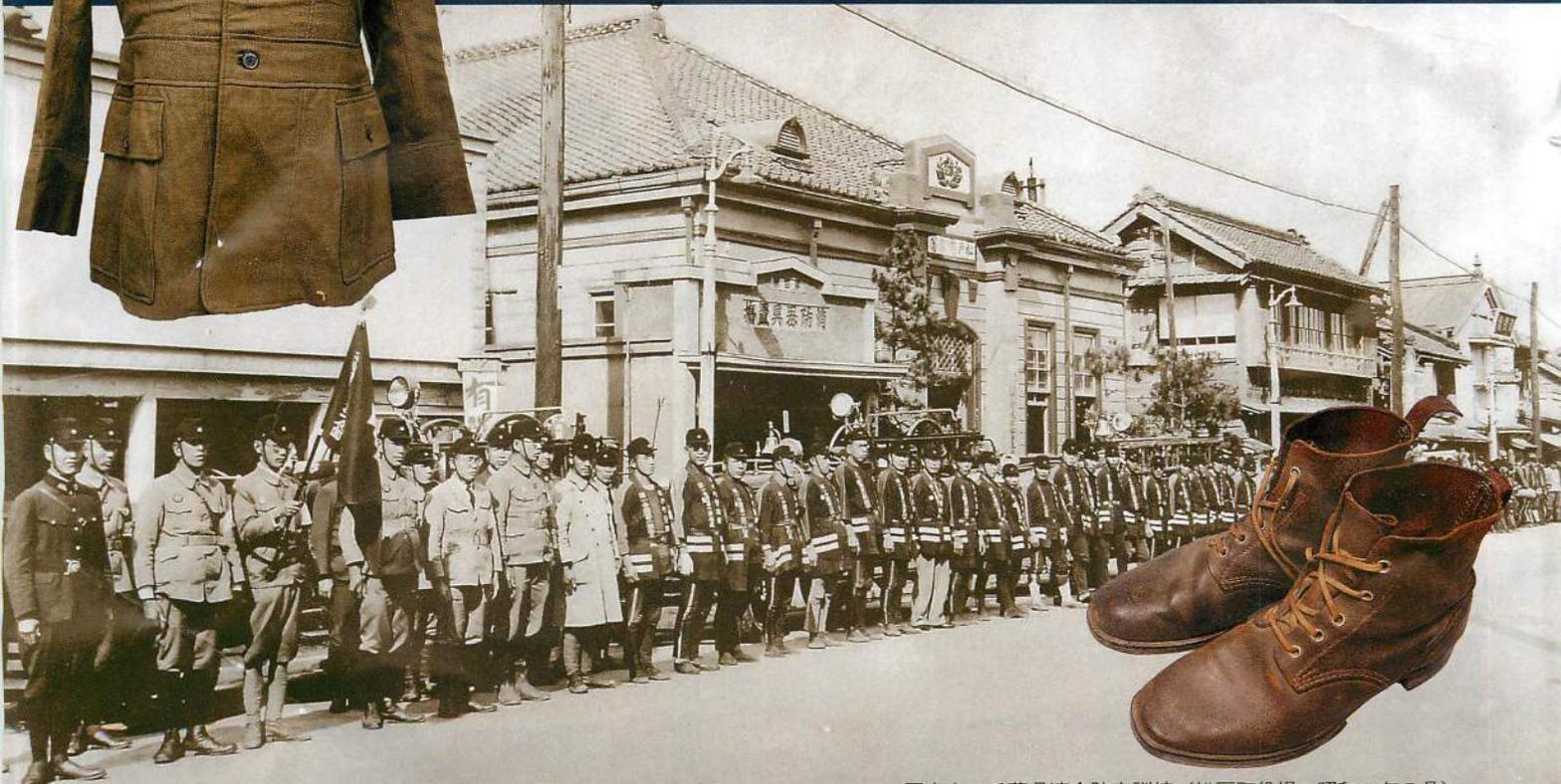
観覧無料



松戸市立博物館
MATSUO MUSEUM

〒270-2252 松戸市千駄堀671番地
☎047-384-8181

http://www.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/



写真上：千葉県連合防空訓練(松戸町役場 昭和14年7月)

同下：松戸警察署前に整列する警防団(昭和14年4月以降撮影)

松戸市平和祈念展

平成27年7月18日[土]~9月23日[水・祝]

昭和60年（1985）3月、松戸市は核兵器の廃絶と世界の恒久平和の達成を念願して世界平和都市宣言をおこないました。本年は宣言から30周年、そして太平洋戦争終戦から70周年を迎えます。

昭和と年号が変わってもなく、中国大陸から太平洋地域にまで広がった戦火は、多くの損害をもたらし、国内でも物資の統制など厳しい生活が続きました。戦争末期には市域も空襲されました。

しかし戦後70年、年々戦争体験者は減少し、戦争の記憶も風化しています。

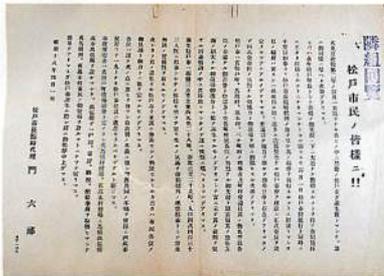
本展示では、市民の皆さまから寄贈された資料を中心にすえて、多くの犠牲と悲劇を生んだ戦争の体験と記憶を後世に伝えるとともに、平和の尊さを多くの市民の方々に知っていただきたいと思ひます。



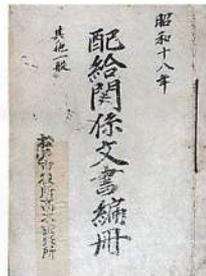
陸軍工兵学校正門
(現、松戸中央公園 昭和)



戦時下の運動会
(松戸尋常高等小学校南部校舎：現、市立南部小学校 昭和)



松戸市民ノ皆様ニ!!
(昭和18年4月1日)



配給関係文書編冊
(昭和18年 松戸市役所高木出張所)



戦時貯蓄債券
(昭和17年 日本勧業銀行)



米飯外食券
(昭和18年 東京府)



戦時報国債券
(昭和18年 日本勧業銀行)

関連講演会

「鉄道連隊演習線の盛衰とその遺産」

日時：9月13日(日) 13時~15時

講師：中川洋氏 (法政大学講師)

定員：80名 (抽選)

会場：博物館講堂

費用：無料

申込み方法：

往復はがき(1人1枚)に、住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記して「9/13歴史を語る(3)」係へ。8月27日(木) 必着

「戦前・戦中の松戸」

日時：7月26日(日) 13時~15時

講師：柏木一郎 (当館学芸員)

定員：80名 (当日先着順・申込不要)

会場：博物館講堂

費用：無料



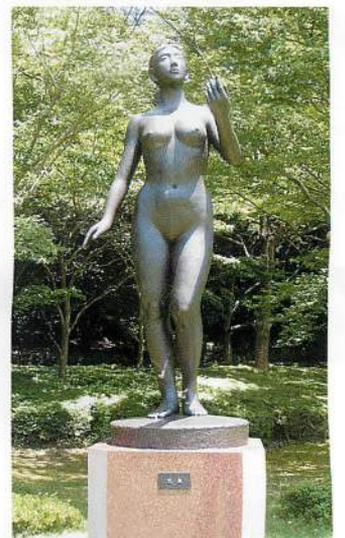
千人針



防空用鉄かぶと



双眼鏡



平和祈念像「光風」
(雨宮敬子作 21世紀の森と広場 平成3年)

交通案内

1 新京成線「八柱駅」JR武蔵野線「新八柱駅」下車、徒歩15分。または松戸新京成バス3番のりば小金原循環か新松戸駅行「公園中央口」下車 (乗車時間約5分)

2 JR常磐線・武蔵野線「新松戸駅」下車、松戸新京成バス3番のりば八柱駅行「公園中央口」下車 (乗車時間約25分)

お車でお越しの方へ

来館者専用の駐車場はございません。21世紀の森と広場の有料駐車場をご利用下さい。なお当館では障害者専用の駐車場をご用意しております。詳しくはお問い合わせ下さい。

松戸市立博物館
MATSUDO MUSEUM

〒270-2252 松戸市千駄堀671番地
☎047-384-8181
www.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/





館蔵資料展

松戸市平和祈念展

2015



はじめに

昭和60年（1985）3月、松戸市は核兵器の廃絶と世界の恒久平和の達成を念願して「世界平和都市宣言」をおこないました。

本年は宣言から30周年、そして太平洋戦争終戦から70周年を迎えます。

昭和と年号が変わってもなく、中国大陸から太平洋地域にまで広がった戦火は、多くの損害をもたらし、国内でも物資の統制など厳しい生活が続きました。戦争末期には松戸市域も空襲されました。しかし戦後70年が経過して年々戦争体験者は減少し、戦争の記憶も風化しています。

本展示では、市民の皆様から寄贈された資料を中心にすえて、多くの犠牲と悲劇を生んだ戦争の体験と記憶を後世に伝えるとともに、平和の尊さを多くの市民に方々に知っていただければと思います。

なお当館の常設展示室「都市へのあゆみ」コーナーでは当時の松戸市域の様子を「戦争と市民」と題して紹介しております。どうぞこちらもご覧ください。

本展開催に際しまして、戦前、戦中の貴重な資料をご提供してくださいました昭和館、公益社団法人日本写真家協会日本写真保存センターはじめ関係団体の皆様、資料を寄贈してくださいました皆様に、厚く御礼申し上げます。

平成27年7月

松戸市立博物館



千葉県連合防空訓練（昭和14年7月 松戸町役場）
前列左端：門六郎松戸町町長 右隣：立田清辰千葉県知事

松戸の軍事施設

戦前、千葉県下には歩兵連隊（佐倉）、野戦重砲兵連隊（市川）、騎兵連隊・陸軍習志野学校（習志野）、鉄道連隊（千葉・津田沼）、陸軍歩兵学校・戦車学校・高射砲学校（千葉）、陸軍野戦砲兵学校（四街道）など多くの軍事施設がありました。松戸市域では第一世界大戦後の大正8（1919）年、陸軍工兵学校が相模台（松戸駅東側一帯の台地）に開校しました。

市域には、鉄道第2連隊が演習のために敷設した軍用鉄

道（津田沼～鎌ヶ谷～松戸）もありました。このルートは新京成線の前身にあたります。

太平洋戦争末期には、現在の松飛台にあった松戸飛行場（逓信省中央航空機乗員養成所飛行場）に、東京を空襲するB29を迎撃するための戦闘機部隊が配備されました。松戸市域にあった軍事施設は、戦後開拓地をへて工業団地、住宅地、公園に姿を変え現在に至っています。



陸軍工兵学校空中写真（昭和19年6月14日）前田久子氏寄贈

写真左下、常磐線の線路付近から延びる「S」字状の坂道を登ると学校の正門にでました。工兵学校の門柱と歩哨哨舎（ともに松戸市有形文化財）は、松戸中央公園に残っています。

松戸飛行場

昭和15（1940）年、民間航空機の乗員養成を目的に^{てい}信省中央航空機乗員養成所が、現在の松飛台一帯に開設されました（同18年、松戸高等航空機乗員養成所と改称）。飛行場建設に際しては県下の中学校・青年学校生徒ならびに警防団員が勤労奉仕として動員されました。

本土空襲が本格化すると、松戸飛行場には東京を防空する陸軍の戦闘機部隊が配備されました。しかし高度1万メートルの高高度で飛来するB 29に対し有効な攻撃を加え

られなかった陸軍は、すべての武装を取り外して、機体を軽くし、体当たり攻撃を敢行する専門部隊を編成しました。松戸飛行場に配備された第10飛行師団第53戦隊では、体当たり専門の第3震天制空隊を編成しました。

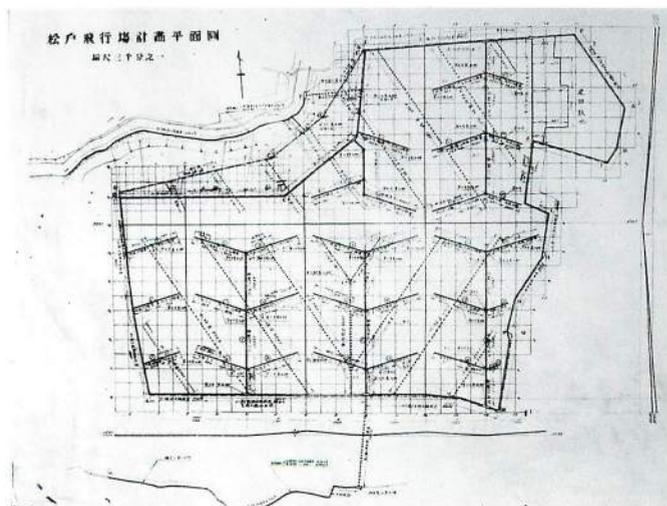
戦後、松戸飛行場の滑走路は開拓地となり、現在は工業団地、住宅地となっています。校舎など施設があった区域は現在、陸上自衛隊松戸駐屯地となり、当時の格納庫が残されています。



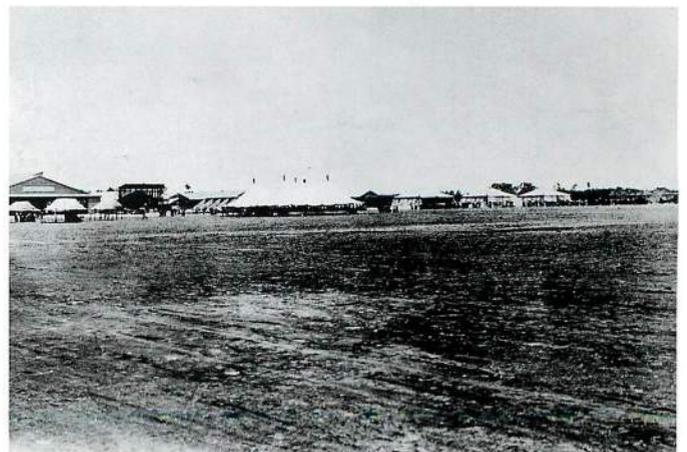
写真週報 第172号（昭和16年 情報局）個人蔵



航空機乗員養成所（昭和18年 墨水書房）
杉山均氏寄贈



松戸飛行場工事記念帖（昭和15年 千葉県）



松戸飛行場工事記念帖（昭和15年 千葉県）

軍用鉄道

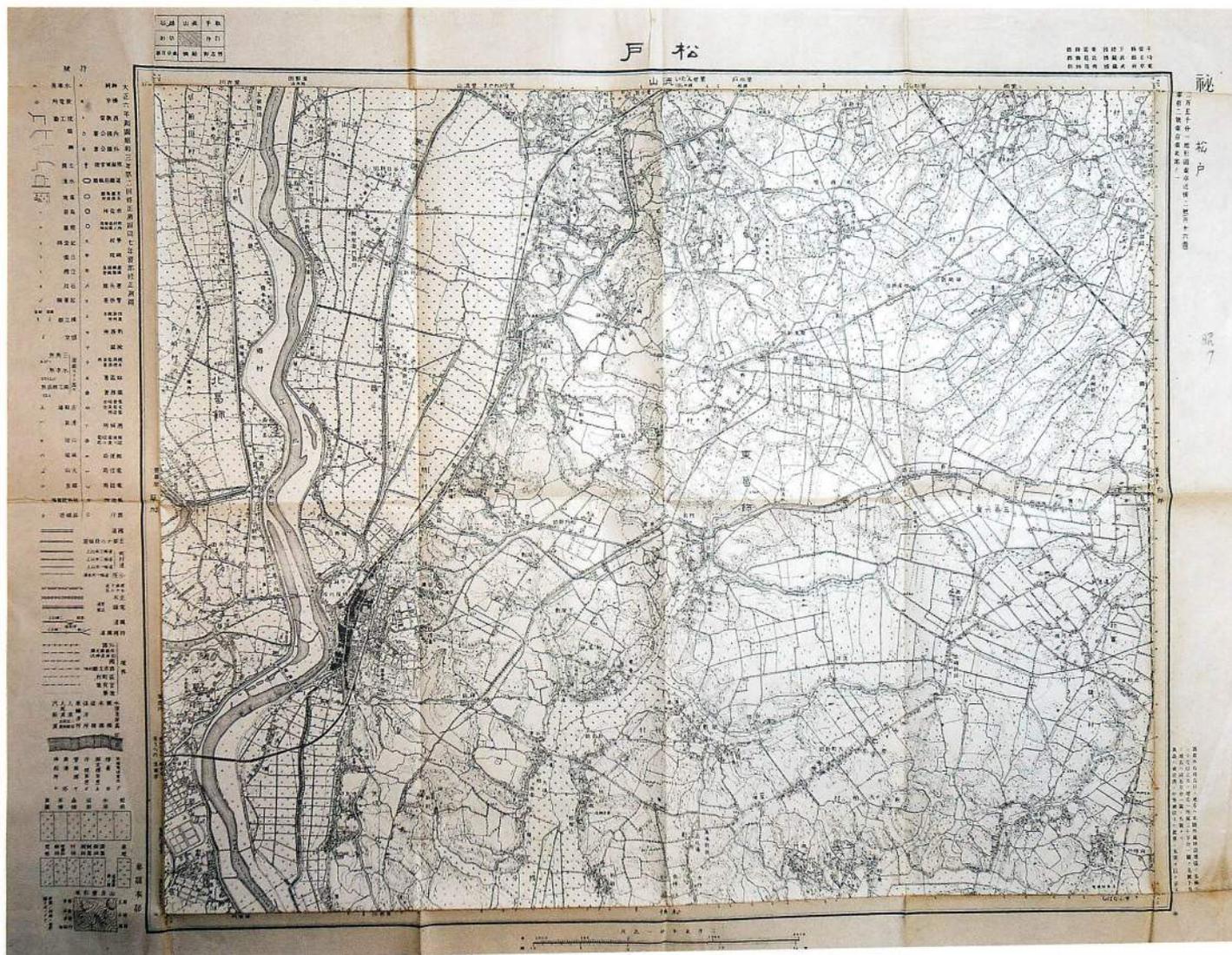
日本の鉄道部隊は日清戦争後の明治29（1896）年、鉄道大隊として誕生しました。鉄道大隊は日露戦争後の同40年、鉄道連隊に拡張されました。大正7（1918）年にさらに拡充されて2個連隊1廠制となり、津田沼には鉄道第2連隊が設置されました。

鉄道第2連隊は、津田沼～鎌ヶ谷～松戸間に演習用の軽便鉄道を敷設しました。この演習線は大正10（1921）年より用地の買収が始まり、昭和元（1926）年から5年計画で敷設（約35km）されました。

この演習線は昭和21年、京成電鉄に払い下げられ、新京成電鉄が誕生します。新京成電鉄は翌22年、まず最初に新津田沼―薬園台間が、同30年、全線（松戸―新津田沼）が開通しました。現在の地図と比較すると、五香駅～常盤平

駅～八柱駅付近を通っていた演習線は、五香駅の先700mほどの地点から北へ1.5キロ進み、栗ヶ沢付近で南に急カーブする点が異なります。

常盤平駅付近から八柱駅の区間では、演習線は西側に大きく迂回していましたが、新京成開通の際に直線に変更されました。同じくみのり台駅と松戸新田駅間も直線に変更されました。上本郷～松戸駅間の線路も、新京成電鉄が用地を買収してできたものです。なお演習線は、現在のの上本郷駅から松戸駅に少し寄ったあたりでふたつに分岐していました。ひとつは胡録台^{ころくだい}を経て相模台の工兵学校に続き、もうひとつは和名ヶ谷^{わながや}から陣ヶ前^{じんがまえ}を経て、千葉大学園芸部の西側まで延びていました。



「松戸」地図（昭和7年 陸軍参謀本部）

陸軍工兵学校

大正8（1919）年、相模台（当時は千葉県東葛飾郡明村^{あきらむら}）に陸軍工兵学校が開校しました。陸軍工兵学校の任務は学生の教育、兵器などの試験、工兵に関する調査研究でした。学生は全国の部隊から選抜された下級将校と下士官で、工兵学校で学んだ知識や技術を各隊に普及する任務をおっていました。

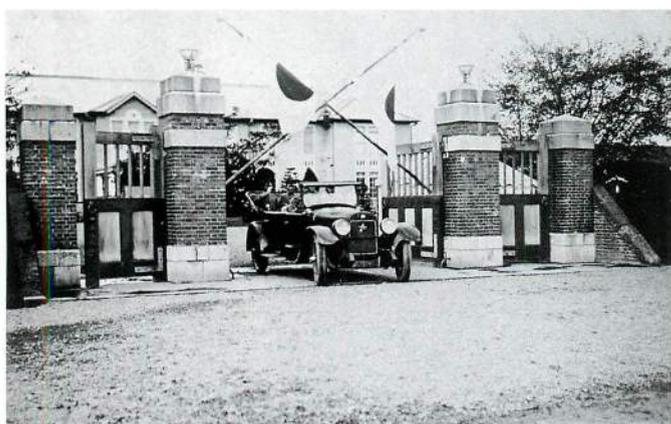
昭和20（1945）年当時の工兵学校の主要任務は次のとおりです。

- (1) 諸種の学生教育を実施して、これを各隊に普及する。
- (2) 工兵関係学術の調査研究を行い、工兵教育の進歩を図る。
- (3) 工兵用兵器資材の研究試験を行う。
- (4) 下士官候補者教育の実施。

(5) 甲種幹部候補生教育の実施。

相模台に学校本部、兵舎、講堂、作業場（演習場）が建設されたほか、現在の稔台一帯が工兵学校の演習場（八柱作業場）となりました。このほか江戸川を使って架橋訓練や渡河訓練が行われました。

戦後、陸軍工兵学校跡地には、戦災で校舎を失った東京高等工芸専門学校が移転してきました。同校は千葉大学工学部となり、昭和32年、西千葉に移転しました。また工兵学校兵舎は、一時的に罹災者や海外からの引揚者の収容施設となりました。現在、工兵学校跡地は、松戸中央公園のほか松戸市立第一中学校、市立相模台小学校、聖徳大学、松戸拘置所、裁判所などの敷地となっています。



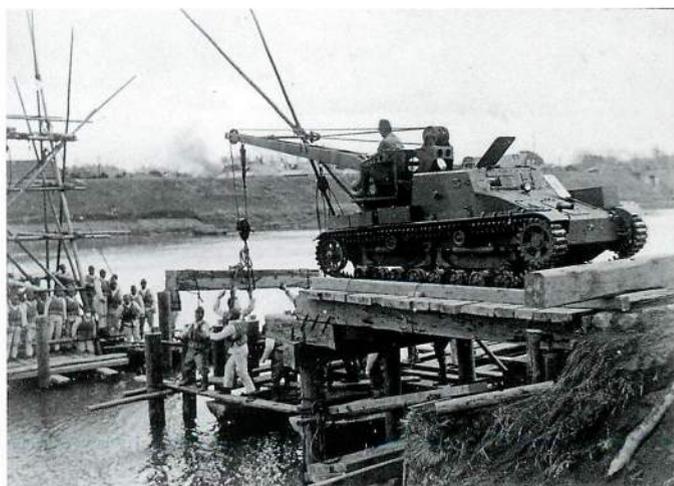
陸軍工兵学校正門（昭和） 前田久子氏寄贈



陸軍工兵学校正門前を行進する兵士（昭和） 前田久子氏寄贈



陸軍工兵学校校庭（昭和） 春山善良氏寄贈



江戸川架橋訓練（昭和） 春山善良氏寄贈

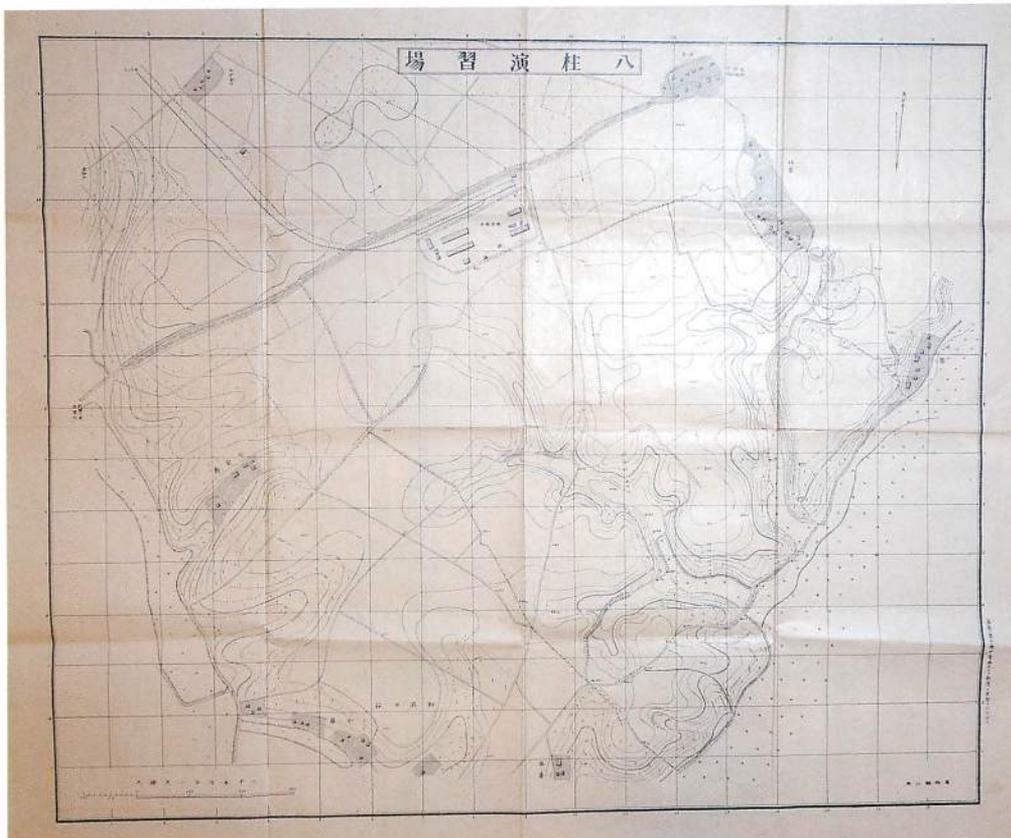
工兵学校八柱作業場（八柱演習場）

大正15（1926）年10月28日、摂政宮（のちの昭和天皇）が工兵学校に臨席し、八柱作業場と江戸川で工兵の攻防演習や架橋演習を視察しました。現在、稔台には「皇太子裕仁親王殿下駐駕所」と記された記念碑が残っています。

また、昭和18（1943）年10月22日、皇太子明仁親王（今上天皇）が学習院生徒として工兵学校に臨席し、江戸川での渡河演習を視察しました。

八柱演習場（正式名称は八柱作業場）は戦後、開拓地となり稔台と命名されました。新京成電鉄が全線開通した際、演習場の入口付近に「みのり台」駅が開設しました。

昭和17年、新たに相模台に隣接した畑地（約27ヘクタール）が、工兵学校の演習地として買収されました。この演習地は戦後、開拓地となり、隣接する胡録神社にちなんで胡録台と命名されました。



八柱作業場（八柱演習場）地図 綿貫啓一氏寄贈



戦車肉迫攻撃（昭和） 春山善良氏寄贈



演習風景（昭和） 春山善良氏寄贈

経済統制下の市民生活

昭和12（1937）年7月7日、北京郊外の盧溝橋^{ろこうきょう}で日本軍と中国軍の武力衝突が発生し、戦火はまたたくまに中国全土へと拡大していきました。日中戦争が長期化すると、国家のすべての力を戦争に集中できる体制が必要となりました。翌13年、政府は国家総動員法を制定し、議会の承認なしに物資や労働力を全面的に動員できるようになりました。

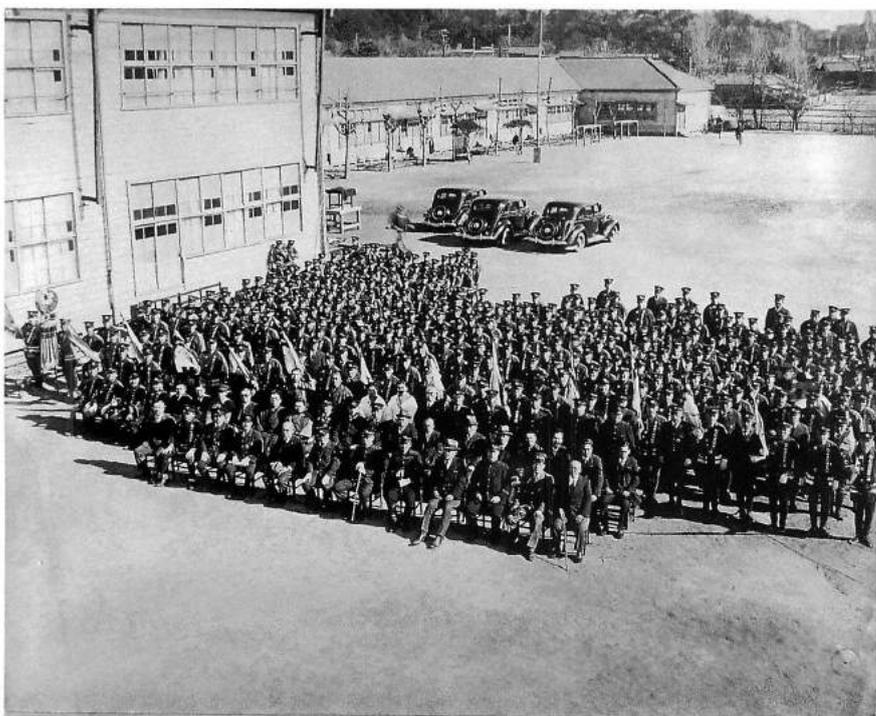
翌14年、国民徴用令が公布され、民間人は軍事産業に労働力として動員されました。軍需が産業の中核を占め、民需品の生産や輸入は厳しく制限されたため、翌15～16年

には砂糖・マッチ・木炭・米・衣料が次々と切符制・配給制となり、農家には米の強制的な供出制度が実施されました。同16年、太平洋戦争が勃発すると、生活必需品の欠乏や食料不足が深刻となっていきます。

金属製品は供出されて兵器の製造にまわされ、陶磁器などの代用品が用いられました。マッチの代用品として硫黄のつけ木や太陽熱を利用したレンズが、ゴムの代用品としてリヤカーのタイヤは木製、自転車のチューブには藁^{わら}が使われたほどです。



戦時下の運動会
（松戸尋常高等小学校南部校舎：現、市立南部小学校 昭和）

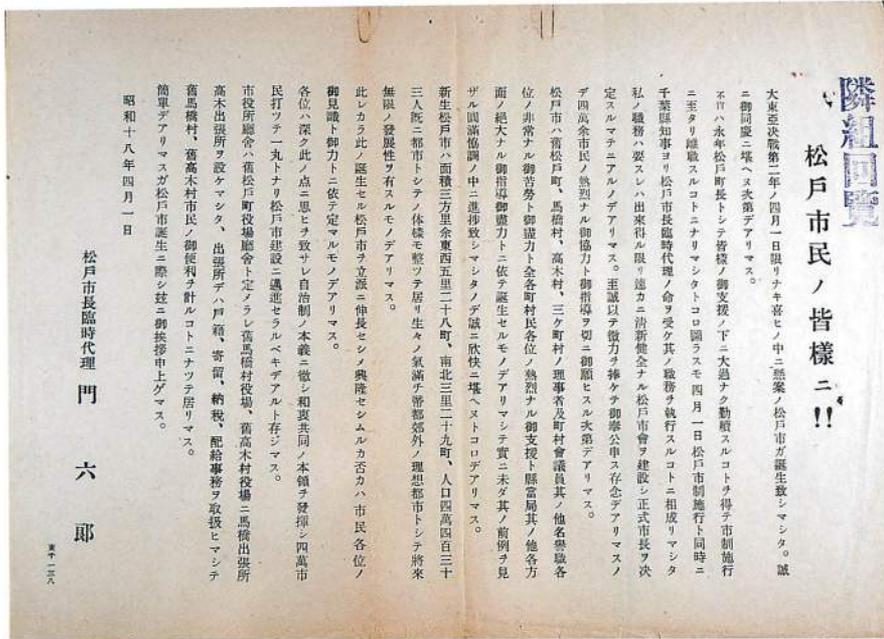


松戸町消防団集合写真
（松戸尋常高等小学校南部校舎：現、市立南部小学校 昭和）

軍事費が肥大化し、国家予算だけでは戦費が不足する事態になりました。そこで政府は、公債を大量に発行すると共に、国民へ貯蓄を奨励しました。金融機関に預けられた貯蓄は債券化され、軍事費にまわされました。家庭の主婦は、家計を切り詰め、内職に精をだし、貯蓄に励みました。しかし終戦を迎えると急激なインフレが起こり、公債や債

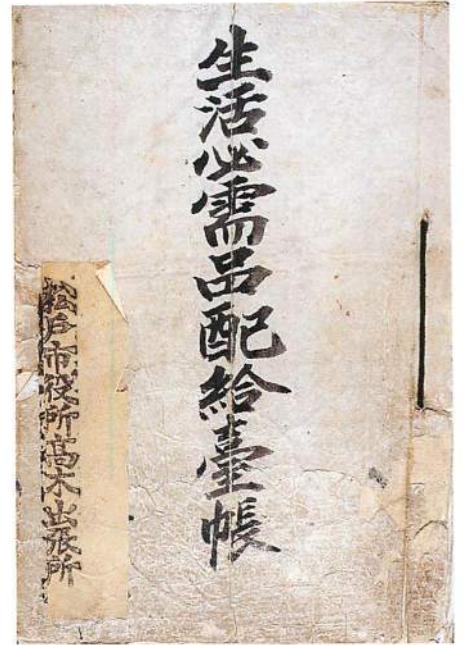
券は、紙くず同然となるのです。

都市の町内会や農村の部落会の下となりぐみの組織として、隣組が作られました。隣組（1組10家庭前後）は、食料や生活物資の配給、国債の割り当て、回覧版の管理などを行いました。隣組は政府命令の伝達と遂行、国民の団結強化と相互監視の役割をも果たしました。

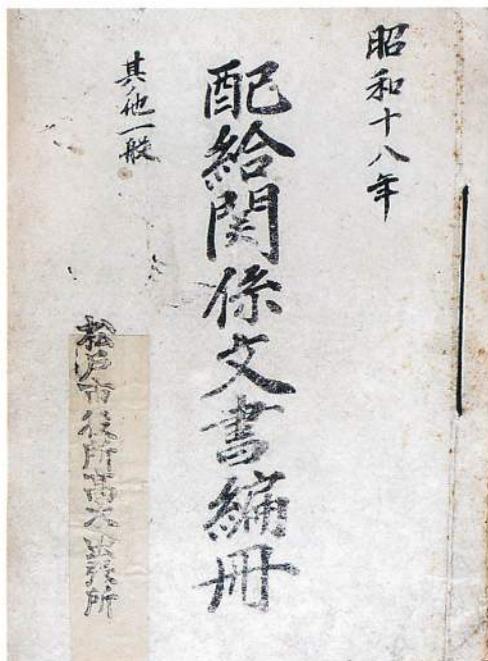


松戸市民ノ皆様ニ!! (昭和18年4月1日)

市制施行当日、松戸市は「松戸市民ノ皆様ニ!!」と題する印刷物を作成し、市制施行の喜びを述べ、今後は4万市民が一丸となって松戸市建設のために邁進しようと市民に呼びかけました。



生活必需品配給台帳 (昭和17年 松戸市役所高木出張所)



配給関係文書編冊 (昭和18年 松戸市役所高木出張所)



戦時貯蓄債券 (昭和17年 日本勧業銀行) 古里ナツ氏寄贈

戦争末期になると、生活必需品の遅配や欠配が生じるようになってきました。切符があっても品物が無い状態が続き、配給されるはずの米も、芋や小麦粉の代用品の割合が増えていきました。

昭和17（1942）年11月頃の松戸町における、生活必需品物資の一部の配給基準は次のとおりです。

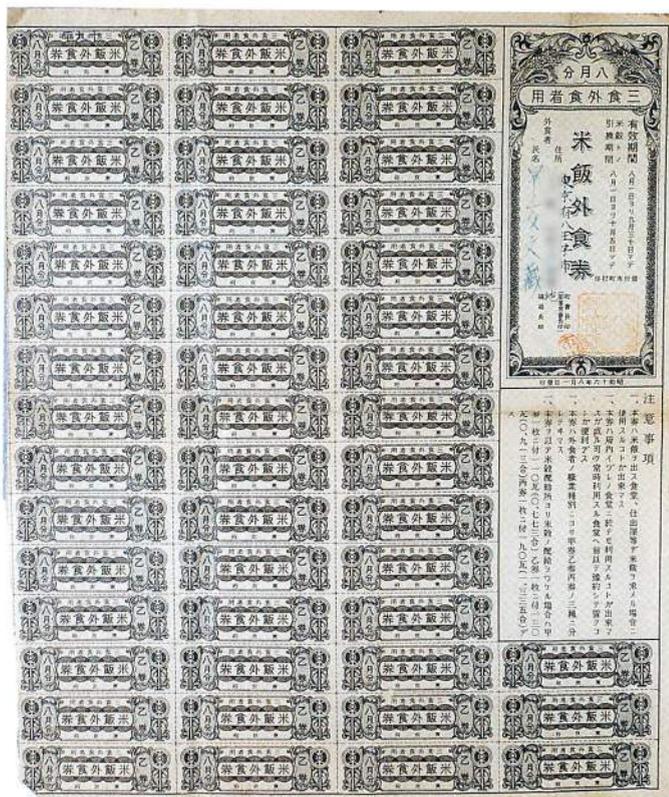
石 鹼：1世帯に対し洗濯及び浴用合せて大体1個の割、特別用として乳児に対して洗濯用1個、産婦に浴用1個。

マッチ：1人3個、2～4人5個、5～7人7個、8～11人10個、12～15人15個。

ちり紙：1～4人100枚、5～10人200枚、11～20人300枚。

米の配給制は昭和16年4月から、6大都市（東京・大阪・神戸・京都・名古屋・横浜）で始まりしました。家庭用米穀通帳は一世帯に通発行され、一日当たりの配給量が記載されていました。米の配給日には、この通帳を配給所に持参し、その世帯の一日の配給日数をかけた量を購入することができました。この通帳は自治体が発行するため、身分

証明書としても使うことができました。しかしひとりあたりの配給量が少ないため、間値で米を購入する人や農村に買い出しに出かける人が続出します。東京の近郊農村だった松戸にも、東京方面から大勢の人たちが買い出しにやって来ました。



米飯外食券（昭和18年 東京府）横川久子氏寄贈



家庭用米穀通帳（昭和19年 東京都）横川久子氏寄贈



家庭用品購入通帳（昭和20年 東京都）横川久子氏寄贈



国民服（甲号）上着（昭和15年制定）前田久子氏寄贈

戦争と市民

昭和16（1941）年12月、太平洋戦争が勃発すると、政府・軍部は国のあらゆる生産能力を軍需目的に集中しました。成年男子が次々と戦地へ駆り出されたため、労働力不足が深刻になります。そこで中等学校以上（満12才以上）の男女学生、女性や中高年の人たちが、軍需工場や農作業に駆り出されました。敵機を監視する防空監視所も、男性に代わって女性が勤務する割合が増加しました。同18年になると大学生の学徒動員、大都市の児童たちの疎開も始まり

ます。

昭和20年5月、ドイツは連合国に無条件降伏し、同7月、米英中三国は日本にポツダム宣言を発し、降伏を呼びかけました。この宣言を日本が黙殺したと理解したアメリカは翌8月、広島と長崎に原爆を投下し、ソ連は日本に宣戦を布告しました。

8月15日、天皇はラジオを通じて全国民に対し、ポツダム宣言の受諾を明らかにします。



旧水戸街道を行進する初代松戸市長門六郎（昭和）



在郷軍人集合写真

（松戸尋常高等小学校：現、市立中部小学校 昭和）

軍の兵役を終えた在郷軍人の集合写真と思われます。帝国在郷軍人会は昭和11年、陸海軍省が所管する公的組織となり、戦時下の国民統合と動員に重要な役割をはたしました。

軍隊の一員として戦場に行くことを、出征といいます。出征する兵士は「祝入營」「祝出征」などと書かれた旗や幟に見送られ、故郷をあとにしました。当初の親戚縁者、近所の人達が駅まで見送るほどの儀式も、物資の不足やスパイ防止などの理由から、次第に盛大さは失われます。出征者には無事を祈る千人針などのお守りや、寄せ書きの日の丸が贈られました。

千人針は、千人もの人が一針ずつ赤い糸で結び目を作って、武運長久を願い、出征する兵士に贈るお守りです。「虎は千里往って千里遷る」という諺から、寅年生まれの人に限って歳の数だけ結ぶことができました。また死線と苦戦を超えるというおまじないで、5銭と10銭硬貨が縫い付けられることが多いようです。



出征の日の丸 小島ヨネ氏寄贈



出征の幟 土屋亮平氏寄贈



千人針 高橋登氏寄贈



千人針 渋谷文雄氏寄贈



小島七郎出征記念写真 小島ヨネ氏寄贈



九八式冬用軍衣 (昭和13年制定)
佐藤齊子氏寄贈



軍隊手帳 横川久子氏寄贈



編上靴 (下士官兵用軍靴)
佐藤齊子氏寄贈



陸軍工兵准尉正衣 前田久子氏寄贈



杉田源兵衛工兵准尉結婚記念写真(昭和14年)
終戦時は少佐(陸軍工兵学校附) 戦後、稔台に入植
前田久子氏寄贈

昭和19（1944）年11月24日、東京は初めてアメリカ軍のB29の爆撃を受けました。B29の編隊は南方の飛行基地（マリアナ諸島、のち硫黄島^{いおうとう}）を飛び立ち、富士山を目標に北上して、東京を攻撃し、房総半島上空を通過して基地へと帰還していきました。その際、B29から投下されたと

思われる爆弾による被害が、市域でも発生しています。大橋にあった「20世紀梨原樹」は、空襲の影響で枯死してしまいました。この原木の一部は現在、当館の主題展示室に展示してあります。



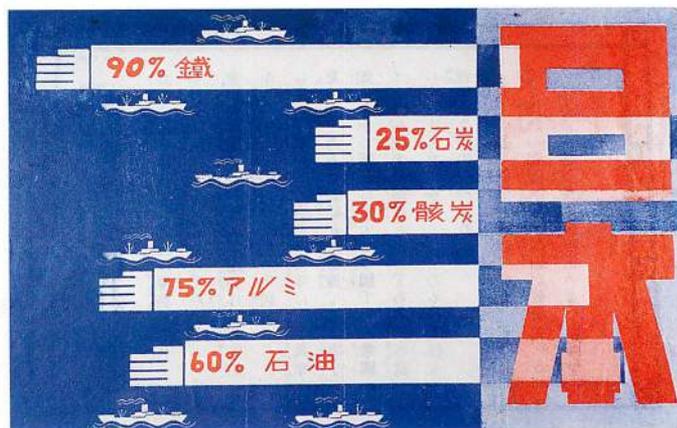
防空用鉄かぶと 木村和雄氏寄贈



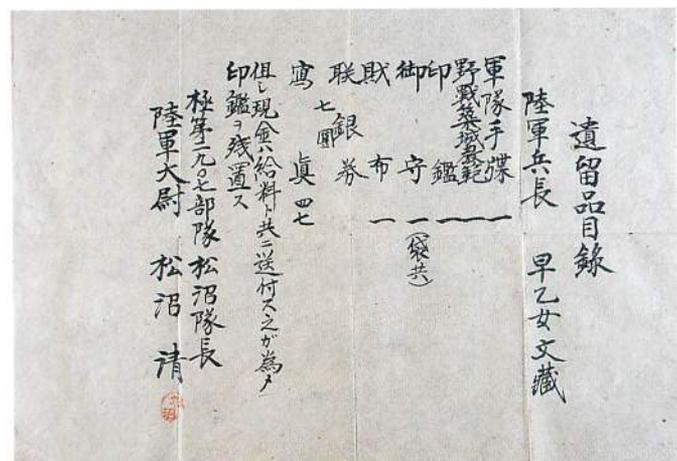
M69焼夷弾筒 山崎藤衛氏寄贈



伝単 山崎藤衛氏寄贈

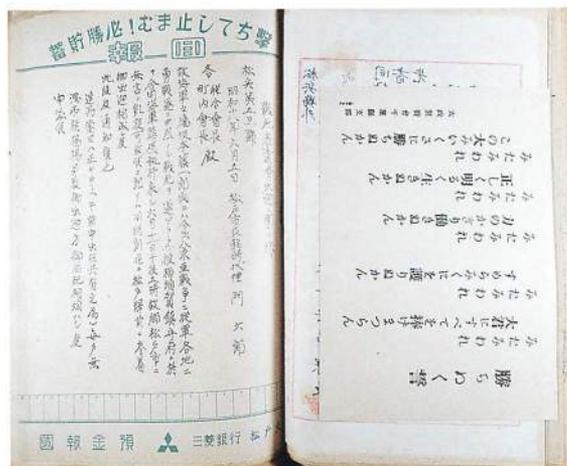


伝単 山崎藤衛氏寄贈



遺留品目録

部隊長から戦死者遺族に送付された遺留品の目録
横川久子氏寄贈



「戦死者遺骨出迎二関スル件」

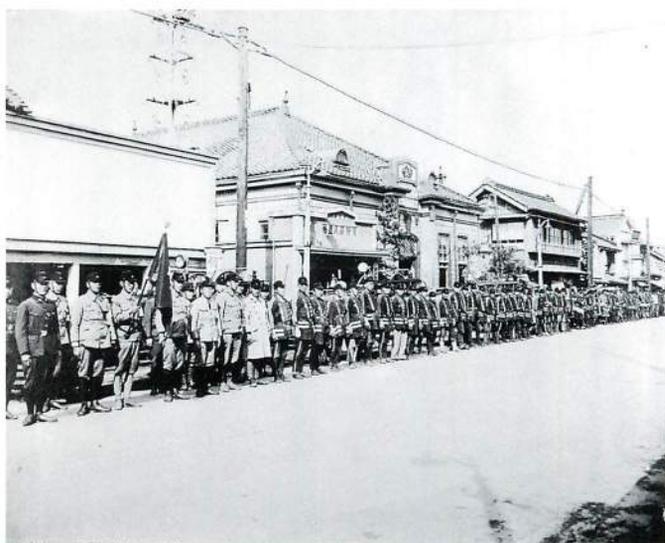
（「雑件綴」松戸市役所高木出張所 昭和18年）

終戦後、第一復員省が作成した「全国主要都市戦災概況図」（昭和20年12月作成）によると、松戸市（旧小金町は含まない）の戦災被害は、死者15人、負傷者14人、家屋全焼5、家屋全壊2、罹災者数40人となっています。

木造家屋が多い日本への攻撃に、アメリカ軍は焼夷弾^{しょういだん}を投下しました。焼夷弾（M69集束焼夷弾）は、38個の六角形の筒に入った弾筒部を束ね、上空1,500mで分解して落下するようにセットされていました。地上に落ちると信管が爆発し、水をかけるとかえって炎が大きくなるゼリー状の油脂が^{でんたん}つめられていました。またB29からは日本国民の戦意をくじくため宣伝ビラ（伝単）がまかれました。大谷口（現在の新松戸駅周辺）上空からも伝単が散布されました。

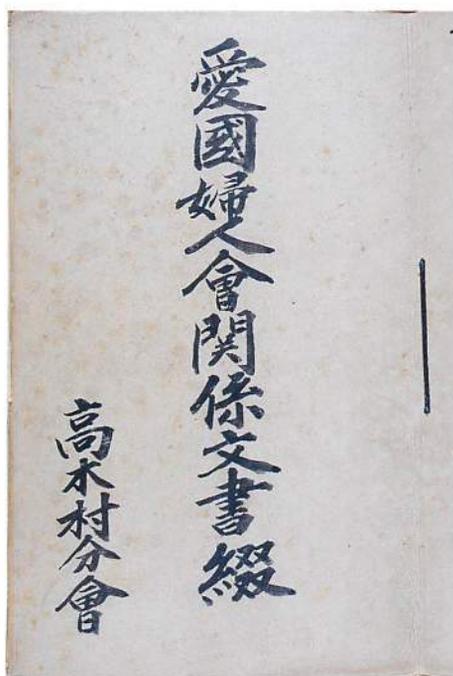


松戸防空監視隊集合写真（昭和） 鈴木イチ氏寄贈



松戸警察署前に整列する松戸町警防団
（松戸警察署 昭和14年4月以降撮影）

警防団は警察の指揮下に入り、防空防火活動に国民を動員する中心的な役割をはたしました。



愛国婦人会関係文書綴（高木村 昭和15～17年）

愛国婦人会は、明治34年創立の軍事援護事業を目的とする婦人団体。（昭和17年、大日本婦人会に統合）昭和18年、松戸町と高木村、馬橋村は合併し、松戸市となりました。



戦没者慰霊祭（松戸尋常高等小学校：現、松戸市立中部小学校 昭和）

平和への願い

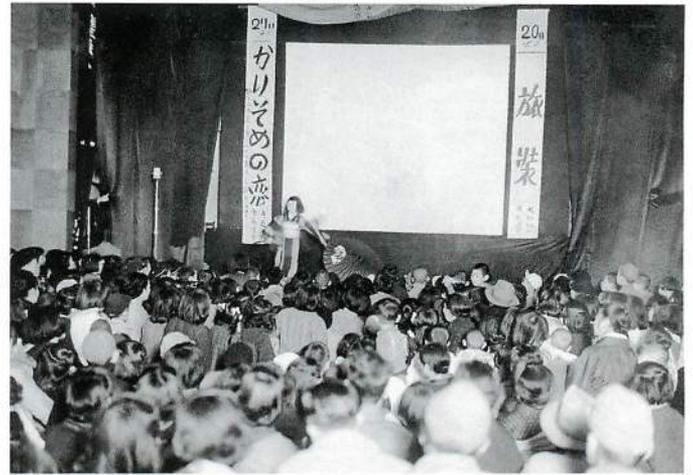
終戦後の国民生活の困窮は、大変なものでした。日常生活物資の不足から物価は高騰し、主食の配給は遅配・欠配が続きました。それは松戸市民も同じでした。また旧陸軍工兵学校の施設に收容されていた罹災者や外地からの引揚者、旧軍用地に入植した開拓者など生活支援を求める人々

に対して、放出物資、あるいはアメリカの救援物資（ララ物資）が支給されました。

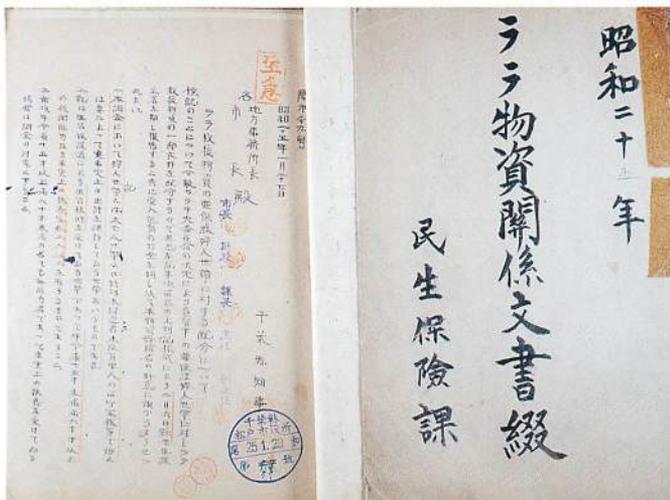
その後、昭和25（1950）年に勃発した朝鮮戦争による特需景気、農地改革の実施による農業生産力の向上などにより、日本経済は復興していきました。



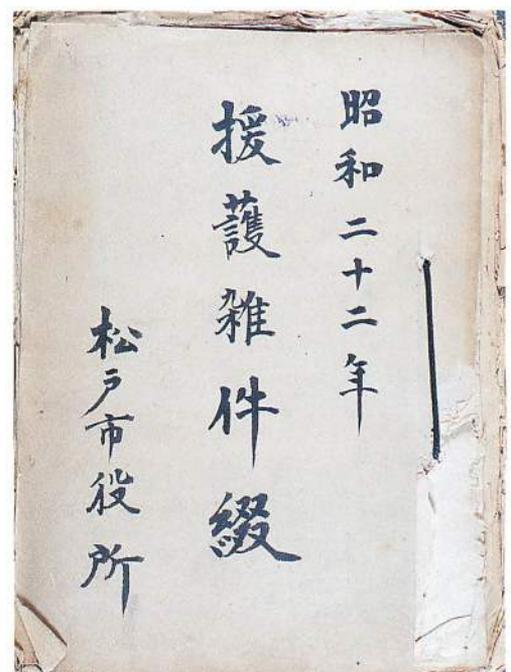
六実を走るアメリカ軍のジープ（昭和20年代）



市制施行5周年記念市民演芸大会（常盤館 昭和23年）



ララ物資関係文書綴（松戸市民生保険課 昭和25年）



援護雑件綴（松戸市役所 昭和22年）

昭和60（1985）年3月、松戸市は「世界平和都市宣言」をおこないました。以来30年にわたって松戸市は、この宣言の趣旨に則った平和継承・保存、啓発事業を毎年継続して実施してきました。

平和事業としてパネル展、講演会、映画会、観劇会、コンサート、戦争体験などの記録保存、戦時中の食事体験講座のほか21世紀の森と広場に平和祈念像の建立（平成3年）、

被爆クスノキ二世の植樹（同22年）などです。また平成20年度からは毎年、長崎市で開催される青少年ピースフォーラムへ平和大使（市内中学生）を派遣しています

松戸市は戦争の体験と記憶を後世に伝えるため、今後ともより充実した平和事業を展開し、一層の平和意識高揚を努めてまいります。



平和祈念像「光風」
（雨宮敬子作 21世紀の森と広場 平成3年）



結団式で任命書を手渡された平和大使（平成26年）



平和の語り部（長崎で被爆した方の体験談をうかがう）



平和パネルポスター展（松戸市民ギャラリー 松戸駅東西自由通路）

世界平和都市宣言

我が国は、世界で唯一の被爆国である。

何人も平和を愛し、平和への努力を続け、常に平和に暮らせるよう均しく希求しているところである。

しかし、現下の国際情勢は、緊張化の方向に進み市民に不安感を与えている。

かかる状況に鑑み、松戸市は日本国憲法の基本理念である平和精神にのっとり、平和の維持に努め、併せて非核三原則を遵守し、あらゆる核兵器の廃絶と世界の恒久平和の達成を念願し、世界平和都市をここに宣言する。

昭和60年3月4日

松 戸 市

主な参考文献

- 宮本晃男 ●「航空機乗員養成所」(墨水書房1943年)
松戸市 ●「松戸市史 下巻(二)」(1968年)
暮しの手帖編集部 ●「戦争中の暮しの記録」(暮しの手帖社1972年)
原田良次 ●「日本大空襲」(中央公論社1973年)
山本茂男 ●「B29対陸軍戦闘機」(今日の話社1973年)
工友会 ●「陸軍工兵学校」(1977年)
福原 勤 ●「旭防空監視哨の記録」(1979年)
原田良次 ●「帝都防空戦記」(図書出版社1981年)
日本放送出版協会 ●「歴史への招待21昭和編」(1982年)
工友会 ●「統陸軍工兵学校」(1985年)
朝日新聞社 ●「それぞれの昭和」(1985年)
藤原彰監修 ●「平和への伝言」(あけび書房1987年)
平和博物館を創る会編 ●「紙の戦争・伝単」(エミール社1990年)
奥住喜重・早乙女勝元 ●「東京を爆撃せよ」(三省堂1990年)
文林堂 ●「陸軍2式複座戦闘機「屠龍」」(1990年)
中西立太 ●「日本の軍装」(大日本絵画1991年)
雑誌「丸」編集部 ●「屠龍/九九軍偵・襲撃機」(光人社1993年)
菊池俊吉 ●「陸軍航空隊の記録 第2集」(文林堂1995年)
藤原彰ほか編 ●「昭和20年/1945年」(小学館1995年)
大井藤一郎編 ●「稔台ものがたり」(稔台連合町会1995年)
新京成電鉄株式会社 ●「新京成電鉄五十年史」(1997年)
米陸軍省 ●「日本陸軍便覧」(光人社1998年)
佐々木潤之助ほか編 ●「概論日本歴史」(吉川弘文館2000年)
高木晃治・ヘンリー・サカイダ ●「B29対日本陸軍戦闘機」(大日本絵画2004年)
大江志乃夫 ●「明治馬券始末」(紀伊国屋書店2005年)
飯田則夫 ●「TOKYO軍事遺跡」(交通新聞社2005年)
東京都 ●「東京都戦災誌」(明元社2005年)
若林宣 ●「戦う広告」(小学館2008年)
一ノ瀬俊也 ●「宣伝謀略ピラで読む、日中・太平洋戦争」(柏書房2008年)
小原解子ほか編 ●「戦争とくらしの事典」(ポプラ社2008年)
熊谷 直 ●「軍用鉄道発達物語」(光人社2009年)
浜島書店 ●「つながる歴史」(2009年)
田中哲男編 ●「東京の記憶 焦土からの出発」(東京新聞2010年)
五味文彦ほか編 ●「もういちど読む山川日本史」(山川出版社2010年)
高木宏之 ●「写真に見る鉄道連隊」(光人社2011年)
羽島知之編 ●「資料が語る戦時下の暮らし」(麻布プロデュース2011年)
太平洋戦争研究会 ●「「写真週報」に見る戦時下の日本」(世界文化社2011年)
アグスティン・サイス ●「日本軍装備大図鑑」(原書房2012年)
水間政憲 ●「ひと目でわかる「戦前日本」の真実」(PHP研究所2014年)
平塚証緒 ●「日本空襲の全貌」(洋泉社2015年)

平成27年度 館蔵資料展 松戸市平和祈念展

- 会 期 ● 平成27年7月18日(土)~9月23日(水・祝)
編 集 ● 松戸市立博物館(企画担当: 柏木一朗)
発 行 ● 平成27年7月18日
印 刷 ● 半七写真印刷工業株式会社
著 作 ● 松戸市立博物館
©Matsudo Museum2015

